

# めだかの学校たよみ

平成29年8月1日  
第97号  
学舎：周智郡森町一宮  
「一宮総合センター」  
事務局：静岡県磐田市  
家田 529-20  
TEL:0539-62-6691

## 校長訓話

第九十七回 校長 加藤真知子

ちようど10年ほど前のことになりました。当時大学生だった私は、友人に誘われて人生初めての海外旅行に行きました。目的は、モンゴルで馬に乗ること。東京のNPO主催のツアーで、全国から集まった大学生や社会人40人と共に、約2週間の旅を楽しみました。

道中、急速に発展する中国の姿に驚きました。それ以上に感動したのが、モンゴルの大自然です。果てしなく続く草原、真っ赤な夕焼け、満点の星空、暖かな遊牧民の人々。旅の仲間と共に慣れない馬に乗り、3日間草原を走り続け、雨に降られ、暑さ寒さにやられ、お腹を壊し：それはそれは過酷でしたが、世の中

にはこんなに素晴らしい自然があるのかと、当時ものすごく感激したことを覚えています。

また、全国から集まった見ず知らずの40人と馬に乗り、苦楽を共にしながら毎日毎晩語り合った日々は、人と関わることの楽しさ、面白さ、心強さを心から感じさせてくれる経験となりました。

昨年、「ご縁をいただいて入校したおもしろ人立「めだかの学校」。その名の通り、面白く、芯のある生き方をしている、面白く、芯のある生き方をしているにモンゴルの！草原を駆けた日のような、なんだかワクワクした気持ちを思い出しました。

あの日、中国で見た光景以上に、さまざまな社会情勢が急速に変化を遂げる現代ですが、いつまでも変わらないのは、

人間が自然の中に生きる一つの生き物であるということ、そして、豊かさとは、人間関係の中で育まれるということだと思えます。

個性的なめだかの一匹として、水にながれてつーいついと、皆さんと過ごすひと時を楽しみたいと思います！



## めだかの学校伝言板

——第97回めだかの学校を開校するので出席しなさい。  
校長／加藤真知子  
教頭／池谷俊裕  
用務員／北川金洋  
給食係／大久保陽・村木謙弐・石野省三・中村やす代  
牧野久子・大谷香代子・今村純子・尾上美智子  
山中幸子・渡辺三ツ子(チーフ)  
※お手伝いできる人はぜひ早めにお出かけを！

<学舎>静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」  
TEL:0538-89-7730(開校日のみ)

開校日／平成29年9月1日(金)6:20PMより——  
受付／大場敬子・大橋町代・北川金洋・斉藤昭(後見人)

25期通年テーマ：『めだかの学校、四半世紀 次世代に何を為し、何を語る』  
今回のテーマ：《ボラン小野田 何を為し、何を語る?》

<時間割>  
～25期 初期 特別授業 1時限1時間～  
●1時間目(1時間) 社会「ボランティア今昔物語」  
小野田全宏 先生(静岡市)  
●給食の時間～マツタケご膳?～

# めだかの町ま

## 泳ぎ回るめだかたち

### ■人生を愉しむなら「かがり火」を 読もう

突然ですが、タイトルにある「かがり火」を皆さんはご存知でしょうか。先輩メダカ生の皆さんなら、すでに僕以上に「ご存じかも」かもしれませんね。「かがり火」とは、「地域づくりは面白い。地域を学び、地域で遊ぶためのヒューマンネットワークマガジン」のことでもあります。

この雑誌は、正直いって儲けは度外視（きつとそうです、そして菅原さんゴメンナサイ）。発行人の菅原敏一さんが、全国で活躍している普通人、この「普通人」というのがポイントなんです。田舎暮らしをしながら、その田舎のことが大好きで、その大好きな田舎を、自分の意志で盛り上げちゃおう！そして自分の人生を愉しんじゃおう！という人を取り上げて、記事にしてくれています。

僕はもちろんこの雑誌の販売人でも、回し者でもありません。純粋に、この雑誌から、全国各地の田舎で人生を愉しんでいる普通人の人を知ると、勇気や元気が湧きます。「こんな方法でまちおこしているんだあ」「うちの地域には、これ以上の宝が眠っているぞー」なんて気づきは、2か月に一度送られてくる毎号感じています。ちなみに年間購読料は9000円です（笑）

また発行人の菅原さんの編集後記がいっぱい見たいですね。前号にも「秋晴れの空のように雲一つない人生を生きている人はいない」というメッセージが

普通の人とはいえ、まちおこしに頑張っている人を取り上げておいて矛盾も感じるかもしれないが、この「どんなに頑張っている人も同じ人間なんだなあ」という感覚が、なんとも言えない安心をこの雑誌はもたらしてくれそうです。「かがり火」支局長のメダカ生多いですよ。

興味があったらよって、言ってくれる方は、ぜひバラさんか草地までご連絡いただき、かがり火仲間になりましょう！

きつとすぐに温かい気持ちを持ちつつも、人生を愉しむ方法を探し出せるはずですよ。（草地博昭メダカ）

### ■まさに女性の出番！第15回全国 まちづくり交流会 in 富山

第15回全国まちづくり交流会 in 富山が、平成29年9月8日（金）10日（日）まで、富山市のホテルグランテラス富山で開催される。タイトルは『女性（おんな）が変える！女性（おんな）で変わる！』。

8日（金）午前10時、午後1時、富山型デイ事業所見学、11時、会場受付、18時、前夜祭。スカイレストラン「ルバーン」で富山の夜景をみながら（参加費3000円）。

9日（土）午前中自由行動。13時開会、惣万佳代子実行委員長挨拶、13時5分森雅志富山市長の歓迎挨拶。13時15分、14時15分講演『米騒動の富山のおかかたち』講師・金澤敏子さん（ドキュメンタリスト）。14時30分、分科会「福祉」（佐伯知華子・喜多聡美）、「農業」（河上めぐみ）、「まちづくり」（大坪久美子）、「教育」（川又佳子）、「観光」（水野素子）。分科会は25分づつ、それぞれの分野からの講演。16時55分、17時30分まで質問と意見交換。（講演と分科会参加費3000円）。18時から、お楽しみの大交流会。ゲスト「楽屋

姫」のコンサートあり。食べて、飲んで、歌って、踊っての大交流会。（参加費5000円）。

講師陣、実行委員もすべて女性。まさに富山の女性の底力。米騒動から富山型ディに至るまでの創意工夫と実行力、そして持ち前の優しさをぜひ実感してください。と

10日（日）自由解散。希望者には①世界文化遺産五箇山合掌集落と国宝瑞龍寺見学。②宇奈月トロッコ電車と宇奈月温泉。③立山アルペンルートのおブシヨナルツアーを用意している。参加費は一万円。

なお、参加締切りが7月31日のため、「めだかの学校」からは、9日（土）、10日（日）の1泊2日で、車で行く予定。今村純子、山中幸子、尾上美智子、大島たまよ、池谷俊裕、奥宮教生、村松達雄。詳細はこれから決めてゆきます。

※第15回全国まちづくり交流会 in 富山の内容報告は次回、第98回めだかの学校だよりに掲載します。（事務局 榎原メダカ）

### ■農村の文化と歴史を巡る遠州大 念仏「蟬しぐれの盆」

遠州大念仏「蟬しぐれの盆」が、8月14日（月）、午後5時半から磐田市敷地の豊岡東交流センター駐車場で行われます。遠州大念仏は、三方ヶ原合戦における徳川、武田両軍の戦死者を弔うための念仏踊りに由来している。静岡県西部地区を中心に約70組が遠州大念仏保存会に所属している。この地域では8月13日から14日にかけて初盆の家を回っている。

### 「人・ひと・ヒト」だより

●静岡市の小野田全宏メダカ。静岡県県庁テア協会の理事長に。同協会の設立運動から参加し、1977年の協会発足時から事務局長を務め、まさに静岡県のボランティア運動を牽引。福祉や被災地支援、協会設立の原点である弱者を自然と支える社会づくりを進める。40年間の活動の喜怒哀楽は、「97回めだかの学校」の授業で。

●浜松市浜北区の松本泰榮（よしたか）メダカ。「御菓司 春華まつもと」を、5月31日をもって閉店。60年前に菓子職人を志して浜松市の春華堂に入社。32年前にのれん分けしてもらって「春華まつもと」を開店。めだかの学校給食のデザートは、松本メダカの手によるもの。ありがとう！感謝！

●東京の青群俳句会から封書。「エツ私に？」。何度見ても死先は磐田市家田 榎原幸雄様。恐る恐る開封してみれば、俳誌「青群」第44号、季刊2017年夏。「今回は何故か、1人分のラベルが余ってしまいました、せつかつくなので一番驚きそうなバラさんを選びました（笑）」と 藤枝市の小嶋良之メダカのメッセージが。ビックリしたなアもう（笑）。季刊俳誌「青群」の編集人のひとり、俳歴30年だつて。

●磐田市の大島たまよメダカ。葛布をはじめて今年で16年目。6月9日・10日と磐田市の『葛菜』の展示会。最初の展示会は磐田市の国指定登録文化財「花咲之庄」で、95回校長のかまちよしろうメダカの「マンガ展」と一緒だった、と。

●浜松市出身で、滋賀県を拠点に活動する草木染作家の草笛由美子メダカ。作品展が磐田市の「花咲之庄」で、7月23日までの2週間開かれた。「井伊直虎」の幼少期や出家後の姿を題材に、コガネバナや

アカネなど、自然染料で描いた。だって。浜松市の浜松秋葉神社で「戦国」から「江戸」への道「秋葉でイイラ展」を8月31日(木)まで開催している。

●浜松市細江町の上島裕志メダカから、女城主「井伊直虎」①本編②伊平物語③川名物語④寺野物語⑤英語版(本編)を一冊に合本したものと、⑥直虎ゆかりの地・歴史秘話「堀川・堀江物語」が送られてきました。絵は江川直美さん、文は柴田宏祐元メダカ。もちろん編集は上島裕志。デザイン工房夢風車の仕事。姫街道未来塾、講師など大車輪の奮闘。今が一番のついでいる時かでも無理は禁物ですぞ!とは影の声。

●磐田市の元キッチン味里のオーナーシェフ金原志郎メダカ。「一時体調をくずしたが息子の店を手伝うようになったら、身体が自然に動くようになった」、だって。お店は浜松市、半田公園時計台前に息子さん夫婦が昨年の12月8日に開店。名前は『ミサトキッチン』。スパイスを効かせた肉料理やカレー、スパゲッティなど地元の野菜をふんだんに使って美味しい料理を提供している。女性に人気のお店のようだ。昼は11時半〜14時、夜は17時半〜21時半まで。定休日は月曜日と第三日曜日。問い合わせは053・433・3311へ。

●藤枝市の横山浩史メダカ。ガンと戦っている。「声は少しかすれているけど、元気です」と、磐田市の事務局まで申し込みを奥さんと一緒に届けてくれました。夜は無理できず出席できないが、毎回力をいただいている。めだかの学校で出会った方(先輩方)が店へ立ち寄ってくれたり、励ましたくれたり、ありがたいものです。6月8日から20日まで、静岡市丸子の丸子匠宿で展示会をやった、と。

●磐田市の松島季美代メダカ。前回は出欠席の連絡もせず申し訳ありません(最敬

礼)。最近「声」に関する表現活動するイベントに参加している。声を生かし、私しかできない表現「ストーリーテリング」(一人芝居&かたり)をしている。だって。

●浜松市の中村明男メダカ。浜松フォークジャンボリー、テニスやジム通い、そば打ちから家庭菜園、版画、陶芸、孫の子守りetcと、元気元気。好奇心もいっぱい。浜松フォークジャンボリーは、9月23日・24日だった。

●静岡市清水区の地域活性化戦略研究所の花井孝メダカ。第96回めだかの学校で使われた、かまちよろろ先生「犬サブレ」。「おもしろい、共感です全く!。女性に見せたいね」と。それがなんと、磐田市の教育委員会のフロアで特に女性職員からの人気は凄い!だって。さすが地域活性化戦略研究所の所長、見るところが違いますねえ!

●浜松市東区笠井町の西川裕子メダカ。歌「えん茶」と「いあんぐる」も4周年。東京からコーラスグループ「コールメッツェン」を招いてコンサートをやった。これからもポチポチ頑張ります、だって。

●湖西市の牛田剛メダカ。17年4月から業務内容を刷新し、屋号も「EIP」から「業務支援代行 マグネット」に改名し、海外や英語に関するサービスを強化している、と。英会話の授業やって欲しいね。

●浜松市の内山ゆきあメダカ。あなたのやりたいこと、企画、夢などを形にする「浜松南・星座館」内すまいるむらで、浜松を盛り上げようとイベントを仕掛け頑張っている。人が好き、人が喜ぶことを形にしている、と。

●磐田市の伊藤英雄メダカ。今、えび芋もサツマイモもいい形で成育している、だって。青々と葉が茂ってました。12月の給食は英ちゃん農園のえび芋とサツマイモ

三昧かも。

●岡崎市の太田民次メダカ。詩吟の会の副会長。昼間は仕事とソフトボールの審判員、夜はスポーツジムで頑張っている。声を出し、身体を動かす、健康そのもの、と。

●浜松市引佐町の石野省三メダカ。絶滅危惧種とされる「タガメ」を増殖しようと3年前から仲間と取り組んでいる。子供時代には多く見られた水生昆虫の多くが希少価値になっていくのを、ご存知かな!引佐には「タガメ」の生息しやすい環境にあることから始めたとか。「タガメ」は肉食で、主にオタマジャクシ、メダカも餌だよ。時にはマムシを捕らえることもある。詳しく知りたかったら聞いてください、だって。

《新入生紹介》

●豊橋市の金子隆メダカ。永いこと会計事務所に勤務。仕事にキリを付け、自由とはこんなにも多忙かと満喫している、と。金子芳美メダカのご主人。もちろん推せん人は金子芳美メダカ。

●磐田市の秋山勝則メダカ。磐田市老人福祉施設で理学療法士をしていたが、4月の市議選に立候補、当選。草地博昭メダカや高田正人メダカらと同じ会派で頑張っている。地元の豊岡地区では期待の星(っ)だった。

××× ×××

今回は紙面の都合でこれまで、みなさんの思いをFAXやハガキでご連絡ください。

《めだか春秋》

平成二十(2008)年三月二十一日、浜松市北区引佐町洪川の伊藤茂男さんが腎不全で亡くなられた。七十四歳だった。

葬儀、告別式は十三日(23日?)の午後0時半から洪川生活改善センターで行われた。暖かな陽射しの春の日だった。

私が伊藤さんと知り合いになったころは、日本国中「まちおこし」「まち活性化」が叫ばれ始めた頃で、当時伊藤さんは引佐町役場にお勤めだった。温厚な口数の少ない、されどブルドーザーのような強烈な実行力のある方だった。そして引佐町役場を基地として数え切れないほど「まちおこし」の知恵を矢継ぎ早に実行した。それら全てが口先でなく、次々と完璧に実行され、的確な効果をもたらした伊藤さん達が音頭を取って、引佐町の休養センター「つみくさ」を舞台に発足させたのが「めだかの学校」だった。親睦を兼ねて情報を交換するこの組織は「三遠南信」を結びつける画期的な試みの一つであった。誘われるままに何度か出掛けた。平成十七(2005)年には、洪川からの情報発信を目的に「洪川大好き大使」の募集がスタート。私は第一回から応募した。早いもので伊藤さんが亡くなって九年目のお盆が巡ってくる。今年はずっと河ドラマ「女城主直虎」で引佐町は燃えている。伊藤さんはこの情景をどんな風に眺めているだろうか。

数々の斬新な企画で住民を元気づけた伊藤さんの「真福と「めだかの学校」の益々の発展を祈願している。

(ばんぶきん出版 小林佳弘メダカ)

※お知らせ

めだか春秋はリレー形式で。文字数は18文字37行以内。

第98回めだか春秋は、浜松市の水島加寿代メダカ。お楽しみに。

めだか春秋は、浜松市の水島加寿代メダカ。お楽しみに。

# トピックス

## ■めだかの学校開校100回・25周年記念日程と会場、実行委員長、副実行委員長決まる

「おもしろ人立」めだかの学校」は、平成5年9月3日(金)に開校し、平成30年6月1日(金)で、開校25年・100回になります。9月を開期とし、9月・12月・3月・6月の3ヶ月に一度開校し、それも第一金曜日の午後6時20分から。この基本原則は、開校以来、学舎が変わった2回以外変わっておりません。そしてこの9月で25年、来年の6月1日で開校100回と続いてまいりました。来年の6月に迎える、開校100回・25周年記念に向けての実行委員会を、6月2日の第96回めだかの学校で立ち上げました。実行委員長に一回生の石野省三メダカ。副実行委員長に松本芳廣メダカと村松達雄メダカに決まりました。細かい事柄は、実行委員会を開いて詰めていきますが、6月29日(木)に開かれた職員会議で日程と会場を決めました。

日程は、平成30年6月2日(土)13時から3日(日)の12時までの1泊2日。

会場は、浜松市北区奥山の奥山方広寺。引佐町奥山は、めだかの学校が発足した地であり、方広寺は10周年記念、20周年記念も行った会場です。

日程と会場も決まりましたので、石野省三実行委員長を中心にみんなで盛り上げていきますよ。

## ■事務局だより

暑い日が続きます。いかがお過ごしですか。

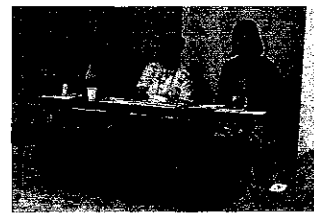
しょうか。子どもたちは夏休みに入り、近所の子どもたちと一緒に朝の6時半からのラジオ体操をしています。孫より小さな子どもたちに癒されます。それからめだかの世話。暑い夏、気持ち次第とうそぶきつつ楽しんでのりきりましょう。

さて、第96回めだかの学校は、平成29年6月2日、校長かまちよしろう、教頭池田悦子、用務員早川幸恵。今回のテーマは「規格外講師による規格外授業」。まさに規格外。かまちよしろう校長、校長訓話から著作の「新感覚!犬ツイート漫画『犬サブレ』」を交えてのお話。静岡新聞朝刊4コママンガ「ゴンちゃん」のふつくら家族マンガのイメージとの違いにびっくり。授業と

なると...。先ずは一時間目金子芳美先生の社会「フオレストベアリンツ」という生き方。今年の3月にタイ王国・首都バンコクのスラム街にあるブラタイプ財団の訪問と、ラオスのスラム街の貧しい生活者の子どもたちを支援する人たちの活動を、豊橋市の仲間たちと視察し、多くのものを学ぶことができた、と資料を持って説明。その熱意や凄さ。



二時間目、かまちよしろう先生の「ダメ犬サブレの精神とその生き方」。ヘロヘロ感がたまらない授業用の「犬サブレの本を



配ってつばやく。なんと63枚のつばやくき漫画。タバコを吹かしている。哀愁たつぷりの犬の後ろ姿に「オーラの男」つばやくを入れてみたら笑いのツボにはまって、あつという間に230枚のマンガを書いた。つばやくつと興に乗った後半は、伴奏バックに「犬サブレ音頭」と「哀愁の犬サブレ」。歌い手の真面目さと内容のつばやくとの絡みあい、笑えて笑えて、いや、マイツタ!



私語飲食全て禁止の次期3役発表のバラメダカ、笑いが止まらず何を言うのか忘れた...とは。ノートをみてやつと、第97回めだかの学校校長加藤真知子、教頭池谷俊裕、用務員北川金洋。大抜てき(?)の27歳若手の校長、支えるはベテラン教頭、元気印の用務員。まさに25期期初の3役。

第97回めだかの職員会議を、6月29日(木)19時から学舎で開く。97回は26年目の期初のため、「建学の精神(こころ)のこころ」を配る。加藤校長、池谷教頭、北川用務員の3役と職員16名が出席。通年テーマと今回のテーマと授業を話し合う。通年テーマを25年目であることから「めだかの学校四半世紀、次世代に何を為し、何を語る」に、97回のテーマは「ポラン小野田・何を為し、何を語る」に。授業は25期期初の特別授業。一時間一時間で、先生は一回生で静岡県ボランティア協会理事長小野田全宏メダカ、課目は社会「ボランティア今昔物語」。

## ■第25期の受け付けをしています

25期は平成29年9月1日から平成30

年8月31日までです。毎年度入校手続きが必要で、6月2日の第96回開校日より受け付けていますが、7月31日現在58名の生徒が済ませました。未提出の生徒には再度申込用紙を同封します。9月1日の開校日までに入学金1000円を添えて手続きを済ませて下さい。手続きがなされない生徒は、名簿からはずれ自主退学となります。ご注意ください。入学を希望する方がいましたらご連絡ください。申込書と資料を送ります。

## ■今回も「めだかの学校だより」選んでごめんなさい。

いつもお手伝いいただいています石野省三メダカ、鈴木武史メダカ、伊藤英雄メダカ、原稿をお願いした草地博昭メダカ、まとめてくださる間瀬亮太メダカ、発送のお手伝い榊原美さん、ありがとうございます!

## ■めだかの学校だよりの原稿を!

今回の発行は、29年11月1日予定。締切りは、10月20日。みなさんの日頃の活動、イベントの開催など、情報を手紙でFAXで電話で...待っています。メールの方は、[mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp](mailto:mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp)、間瀬亮太090-50009-09886です。(メールの方は割付の関係もあるので一報を。)

## ■めだかの学校の事務局

〒438-0105 静岡県磐田市市家田5-29番地20 榊原幸雄方 TEL 0539-62-6691 (FAX 同)

※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮3150。電話 0538-89-7730 開校日の午後4時以降のみ使用可。携帯 080-11612-9130

